

意見に対する区の考え方

1. 意見募集の概要

件名	「文京区立中学校部活動地域移行実施計画 2026」（素案）
募集期間	令和 7 年 8 月 1 日から令和 7 年 9 月 1 日まで
提出者数	9 名
意見数	17 件

2. ご意見に対する区の考え方

※「部活動の地域連携・地域移行」は「部活動の地域展開」と記載しております。また、「部活動の地域展開」のもと行う活動を「地域クラブ活動」と記載しています。

No.	関連する 主要項目等	ご意見【原則原文のとおり】	区の考え方
1	計画全体	中学校部活動の地域移行について、説明会を何度か拝聴し、また、素案も拝読いたしました。是非進めていただきたい内容だと思います。行政の方々はいろいろと大変だと思いますが、早期に、部活動のTRANSFORMを成功させていただきたいと思います。	今後も説明会等により保護者・区民の意見をお伺いするとともに、検討会議等で多面的・多角的に検討し、部活動の地域展開を進めてまいります。
2	1(1) 部活動をめぐる動き	区立中学に通う中学 3 年生の保護者です。子供は 3 年間運動部に所属し、大会シーズン終了に伴い活動から引退しましたが、社会の少子高齢化、教職員の皆さんの勤務環境改善を踏まえ、区立中学校部活動を今後も継続するためには地域移行が必要だと思います。	少子化や教員の長時間勤務等の様々な状況に鑑みて、部活動を現状のまま継続していくことは困難であると考えています。持続的に生徒へ豊かな活動を提供するとともに、教員の負担を軽減するためにも、部活動の地域展開を進めてまいります。

3	4(3) 生徒の成長 機会（生徒の ニーズと選 択の自由）	地域移行は賛成。 現在部活動の時間が長すぎて生徒や保護者の負担も大きいので、早く地域移行して活動時間を減らしてほしい。	今後の休日の活動については、これまでの部活動の活動時間と同じ 3 時間程度とする予定です。平日も地域クラブによる活動となった場合の活動時間については、アンケートでニーズを把握するなどして適切な時間設定を検討してまいります。
4	5(1) 「地域移行」 のイメージ	自校の生活で精一杯の生徒もいます。また自校に通うことも難しい生徒がいます。それらの生徒の行き場はない状況です。 一人でも多くの中学生が活動できるように、平日の日中に過ごせる第 3 の場所としての機能をもたせるなど、従来の部活動を移行するのではなく、選択肢を増やすことに重点においていただきたいと思います。	従来の部活動をそのまま地域クラブ活動に置き換えるのではなく、様々な面で新たな価値を付与できるよう検討してまいります。
5	5(1) 「地域移行」 のイメージ	学校と違う場所で、他校の生徒と一緒に活動することは、生徒にとって大変な負担にもなります。子どもにも聞いてみましたが、自分だったら参加したくない、と考えているようです。	他校の生徒との交流によって、多様な価値観への理解や協調性の育成などにつながっていくと考えております。体験会を催すなど、より多くの生徒が参加したいと思えるような魅力的な制度設計を検討してまいります。
6	5(1) 「地域移行」 のイメージ	部活をやりたいくても、先生がいなかったり、仲間がいなかったりで、思うように活動できていない子の話を度々聞く。 その意味でも、地域移行により全ての子が望む指導を受けられるようになるのは良いと思う。	現行の部活動では、経験者である教員が在籍しておらず、専門的な指導を受けることのできない部活動や、やりたい活動が自校にない場合があります。 そのため、できる限りどの生徒も自分のやりたい活動（分野）にチャレンジできるような地域展開を目指してまいります。

7	5(1) 「地域移行」 のイメージ	中学校を通して以前からこの問題の事は認識していました。 こどもが通う中学では、短時間の部活動に移行しており、物議を醸しましたが大枠は賛成です。 但し、根本的には現代社会、特に文京区という立地で、学校教育の一環としての部活動の必要性が有るのかという疑問があります。 部活動に参加していなくても、学校教育は完成されるものであり、塾や各種習い事と競合している部分を考えると、今の延長線上の部活の必要性は薄いと考えます。 現代の都市生活者における教育に対する課外活動の要望としては、単に技術や知識の修得だけが望まれるものではないと個人的には考えております。 それは「異年齢集団による相互教育」、「いずれくる成人世代との円滑な関係構築」、「Aiや世界環境の変化に対応する姿勢を体感し身に着ける主体的な学習」等で有ると思います。 既存の部活動も勿論上記の様な課題への解決策の一つではありますが、学校という範囲で行う必然性が乏しくデメリットも多く感じられます。 例えば、9 中で始まった地域の町会を交えた実験的な取り組みは、地域の活性化という課題解決を行いながら、複数学年での主体的な学習であり、現実社会で直面する成人世代との交渉を経験できるという意味で非常に有効な取り組みだと考えております。 しかしながら受容する町会側の意識レベルが統一されておらず、その活動の質は様々な状況であると考えております。 その為、受容する意思のある団体の枠を広げ、課外活動の認定を与えて行う事が良いと考えております。 具体的には、消防団や子ども食堂、ボーイスカウト活動等が相当すると考えています。	本計画では、現在区立中学校で行われている運動部活動の地域展開を目指しております。加えて、生徒のニーズを把握し、新しい競技による地域クラブ活動も行えるよう検討をしています。 将来的には、多様な年代の受け入れや、文化活動などの対象範囲の拡大など、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障するために、文京区の実情等に合った望ましい在り方を検討してまいります。
---	-------------------------	---	--

		これらの活動のプログラムの運営・準備・目標設定の段階からかかわる事に良い、上記の「異年齢集団による相互教育」、「いずれくる成人世代との円滑な関係構築」、「Ai や世界環境の変化に対応する姿勢を体感し身に着ける主体的な学習」等の失敗と成功の体験を詰める場にする事が肝要では無いでしょうか？ 従来の運動や音楽などクラブチームにくわえ、文化活動（地域活動）という枠を拡大し対象団体にします。 ※従来型のスポーツクラブであっても練習メニューや練習時間、目的の設定段階からより積極的に生徒が関与する事で、教育的効果を上げる事は期待できると考えております。 また、この活動により少年世代の前後のつながりや地域との繋がりが促進される為、街としての活性化にも寄与する事と思います。 同時に教員の過剰労働、非専門領域の指導等の課題も削減されます。 従って、地域連携・地域移行は積極的に推進し、その需要を従来の部活の枠組みから拡大させる事で、教育効果の高まりと地域の活性化が促進される事と考えています。 文京区の区議会議員にはこの様な活動に携わっている方も数多くいらっしゃいますので、期待しています。 自治体と住人が一体となる大胆で多様な新しいビジョンを描き、文京区それを支援して頂ける自治体で有る事を切に願う物であります。	
8	5(3) 教員視点の アウトカム イメージ	部活指導を望まれる先生がいらっしゃるのであれば、手当の増加や指導者講習会の開催等、モチベーションアップになるような仕組みもあると良いと思う。	地域クラブ活動への参加を望む教員についても、地域クラブ運営の重要な担い手となりますので、地域クラブ活動への参加を希望する教員がいる場合、兼職・兼業により参加できるよう検討しております。

9	6(4) 第一次目標 達成に向けた 取組時の課題	今年からは子どもが運動部に入り、部活動の現状を見ると、休日の試合の引率などもあり、先生の負担がかなり大きいことを改めて実感いたしました。地域移行に関しては賛成ですが、費用の面・指導者の資質の面・活動場所の件など、課題もかなりあることがわかりました。まずは休日から段階的に進めることも非常に良いと思いますが、今後完全に移行した際、平日夕方と休日に指導できる人材がどれほどいるのかと思います。	指導者の確保については、重大な課題であり、特に、平日も休日も指導できる人材については、その確保が難しくなることが予想されます。そのため、地域のスポーツ団体や事業者等に広く協力を仰ぎ、人材の発掘に取り組んでまいります。 実施計画「7 重点戦略」重点戦略1、取組の②の内容を変更いたします。
10	7(1) 重点戦略1 「地域クラブ活動の土 台作り」	3. 現行活動の尊重が必要です。 すでに楽しく夢中になって活動している子どもたちに、突然「今日で終了」とするのは心情的にも忍びないと感じます。移行にあたっては、現行活動を踏まえた柔軟な対応を望みます。	令和8年度については、休日は一律に地域クラブ活動とするのではなく、部活動として活動したい場合は、現行どおりに活動できる選択肢も残すことも検討しております。今後も、生徒・保護者・地域・教員等の意見を伺いながら柔軟に進めてまいります。
11	7(2) 重点戦略2 「部活動の 地域移行につ いて理解促進」	素案を拝見しましたが、地域移行に伴う保護者の役割や関与の仕組みについても再考する余地があると感じました。 私の子供が所属した部活動の例を挙げますと、保護者が部活動顧問・コーチの先生と生徒保護者との連絡調整役、ユニフォーム等の購入代金取りまとめの会計役、会計監査役といった役割を分担しておりました。また、試合の際は先生や生徒の負担軽減のため、有志の保護者で練習道具の運搬や、試合後研究用のビデオ撮影等を支援しておりました。 特に運動部については生徒保護者の関与と支援が必要ですから、中学校部活動の地域移行に伴い、この仕組みをどのように変えるのか、各中学校PTAと連携して考える必要があるのではないのでしょうか。	部活動を地域クラブ化すると、ご指摘いただきました内容については、基本的には地域クラブの運営主体が対応することとなります。保護者の方々や地域の方の関わり方については、他自治体の事例等を参考にしつつ、PTA 連合会等と協議してまいります。 実施計画「7 重点戦略」重点戦略2、取組2の内容を変更いたします。

12	7(3) 重点戦略 3 「豊かな活動の提供」	中学校生活は毎日がとても忙しく、授業、部活動の他に、委員会、宿題、行事などがあり、休みをとること、家族と過ごすこと、興味のあることを楽しむことなどの時間の確保が難しい現状です。 部活動の地域移行によって、さらに部活動にかかる時間が増え、本人及びサポートする家族の負担が増えると感じます。 学校内で、時間内で、活動できる範囲の部活動の選択肢を増やしていただきたいと思います。現状の部活動にかかる日数や拘束時間はもっと減らすことができると感じます。	将来的には子どもたちへの多様な学び場の提供のため、いろいろな分野の地域クラブを創設したいと考えております。 移動時間が増えてしまうことも想定される一方で、継続的に専門的な指導者を確保できることや他校の生徒との交流による多様な価値観への理解などが期待できると考えております。
13	8(1) 指導者の専門性と資質・能力	2. 生徒側に指導者を選ぶ権利があると考えます。 学校だけでは指導者の選択肢が限られる場合があります。子ども自身が信頼できる指導者のもとで活動できることは、学びや成長の上でも重要です。	指導者は生徒と信頼関係を築ける人材であることが重要と考えておりますので、各種方面と協力しながら人材の発掘・育成を進めてまいります。 実施計画 8(1)を修正いたします。
14	8(1) 指導者の専門性と資質・能力	地域移行しても、子どもたちが安心安全に活動でき、部活内容のレベルが低下しないように、くれぐれもお願いしたいです。	生徒と信頼関係を築け、指導力を有する人材の発掘・育成を各種方面と協力しながら進めてまいります。

15	8(4) 受益者負担	我が家では、経済的な理由から外部での習い事などを子供達にさせてあげる余裕がございません。上の子達2人は中学校時代にバスケットボール部でお世話になり、放課後や休日にたくさん身体を動かし、肉体精神共に育てていただきました。お陰様で、2人とも高校生になった現在、高校生活をそれぞれに頑張っております。大変ありがたかったなと思います。今後地域移行になった場合、今までの部費は年間6000円程でしたが、交通費やコーチ陣への月謝など、金額的に大きくなるのかと考えますと、続けさせてあげられるのか不安な部分があります。ですが、今まで先生方のご厚意で指導していただいていた事を思うと、それはわがままなのかもしれない、とも同時に思います。経済的な理由だけでしたら、私自身が働ければと思いますが、高齢の両親の介護をしている為なかなか難しい現実がございます。息子はとても部活が大好きで頑張っていますので、応援したいです。たくさんの方がそれぞれの立場に良いようにと考えてくださっている事と思います。個人的な意見になりますが、できましたら、学校拠点で部活動ができれば良いなと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。	部活動の地域展開においては、これまで教員や部活動指導員等が行ってきた指導等を運営団体・実施主体が担うことになるため、新たな指導等に係る費用が発生いたします。 一方で、生徒の多様な学びの場の保障の観点から、経済的理由で子どもたちの活動機会が失われないようにすることが大切であると認識しております。 今後、他自治体の事例も参考にしながら、保護者の経済的負担について検討するとともに、国や都の補助金等を積極的に活用するなど、財源の確保に努めてまいります。 なお、様々な競技を学校ごとに設立すると参加者数が必要数を満たせず、活動が持続できない恐れがあるため、できる限りどの生徒も自分のやりたい活動(分野)に参加できるよう拠点を設けて実施する予定としております。
16	8(6) 各種団体との連携	1. 外部団体への所属でも問題ないと考えます。 子どもたちが多様な活動機会を持つことが目的であれば、地域のスポーツクラブや文化団体など、外部団体での活動でも十分だと考えます。	地域のスポーツクラブや文化団体など、外部団体への地域展開を進め、多様な学び場を提供してまいります。

17	8(8) 財源の確保	報酬が少ないと更に人材確保が難しくなると思うので、その辺りの財源確保をしっかりと行って欲しいと思います。	他自治体の事例も参考にしながら、保護者の経済的負担について検討するとともに、国や都の補助金等を積極的に活用するなど、財源の確保に努めてまいります。
----	---------------	--	---